

#### IV 観光・文化・スポーツの振興

---

---

## IV-1 県・市連携文化施設整備への支援について

国土交通省大臣官房、住宅局

---

---

### 【要望の内容】

県民の文化芸術活動の活発化はもとより、まちの賑わい創出を図ることを目的に、「県・市連携文化施設」を秋田市の中心市街地に整備することとし、本年度から社会資本整備総合交付金「暮らし・にぎわい再生事業」を活用し、設計業務を進めているところであり、今後、事業が本格化することから大幅な予算の拡充を図ること。

### 【要望の背景や当県の取組】

- (1) 県民会館は、築後56年が経過し老朽化しているほか、舞台面積や楽屋の不足等により舞台装置が大がかりな実演芸術やコンサートが開催できないなど、鑑賞者や出演者のニーズに十分対応できない施設になっています。
- (2) 秋田市文化会館も築後37年が経過し、老朽化の進行と併せ、舞台設備や給排水設備の更新など大規模な改修が必要な状況にあります。
- (3) こうしたことから、県と市では、これらの既存施設を一か所に集約し、連携して整備、運営することで、将来的に人口減少が見込まれる中であっても、低廉で良質な行政サービスの提供を目指すことにしました。
- (4) 本事業は、人口減少社会において、自治体間が連携して効率的なまちづくりを進め、地域の賑わいを再生しようとする全国的にも例のない取組です。
- (5) 施設の整備により、県民の鑑賞機会の拡大や文化活動の活発化を図ってまいります。施設周辺における民間事業者等のプロジェクトと併せ、本事業を推進することで、秋田市中心市街地における地域住民相互の交流が一層促進され、賑わいが再生されるものと考えています。
- (6) 現在、平成33年度中の施設開館に向けて、設計業務を進めており、建設工事については31年度の着手を目指しています。

### <スケジュール>

- 平成29年度～ 基本・実施設計（「暮らし・にぎわい再生事業」）  
平成31年度～ 建設工事着手（「暮らし・にぎわい再生事業」）

【参考資料】

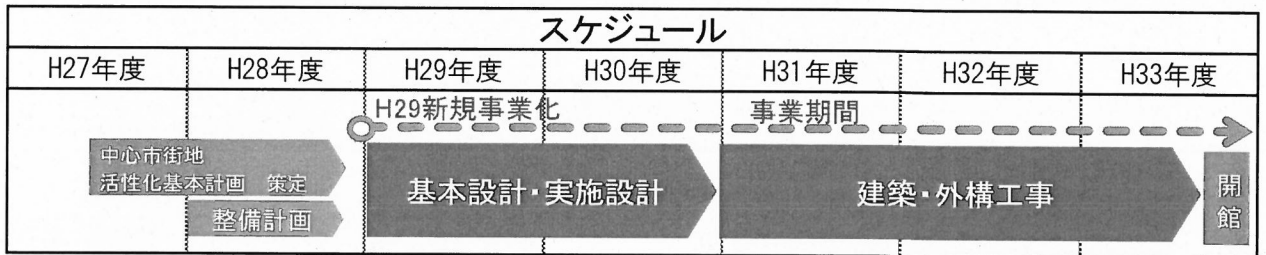
県・市連携文化施設の整備

【県民会館】

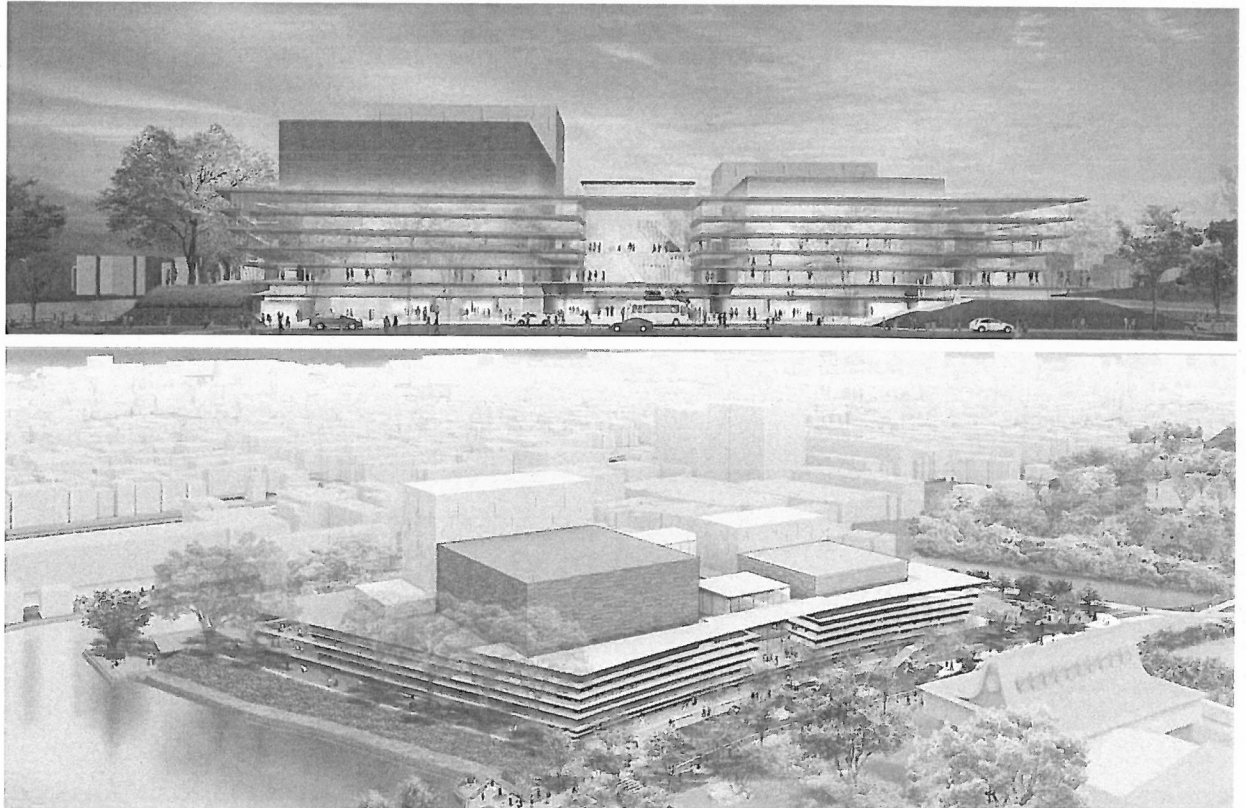
- 設置者 秋田県 ○ 延床面積 9,304㎡
- 座席数 大ホール 1,839席
- 平成28年度 入場者数 184,886人  
施設稼働率 66.9%
- 主な課題  
築後56年を経過し、施設・設備の老朽化等に  
伴い、鑑賞者や施設利用者の多様化・高度化す  
るニーズに機能が十分対応できていない状況

【秋田市文化会館】

- 設置者 秋田市 ○ 延床面積 14,284㎡
- 座席数 大ホール 1,188席
- 平成28年度 入場者数 108,553人  
施設稼働率 67.5%
- 主な課題  
築後37年を経過し、調光等の舞台関係のほか、  
空調、給排水等が耐用年数を経過し、大規模改  
修が必要



県・市連携文化施設完成イメージ



(県担当課室名 観光文化スポーツ部文化振興課、建設部建築住宅課)

---

---

## IV-2 訪日外国人旅行者の誘客促進に向けた支援の拡充について

復興庁  
国土交通省観光庁

---

---

### 【要望の内容】

東北地方における訪日外国人旅行者の誘客促進を更に加速させるため、昨年度より創設された「東北観光復興対策交付金」を当分の間継続させるとともに、大都市圏に集中している訪日外国人旅行者の東北地方への流動を促すための幅広い支援策を講ずること。

### 【要望の背景や当県の取組】

- (1) 昨年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では、訪日外国人旅行者の大幅な増加を踏まえ、これまでの政府目標を大幅に前倒しし、2020年までに4,000万人に増加させるとともに、特に、東北地方における外国人宿泊者について、現在の約3倍となる150万人泊とする新たな目標が示されています。
- (2) こうした中、当県における平成29年上半期の外国人宿泊者数は、東日本大震災前を初めて上回るなど順調な伸びとなっているものの、全国の宿泊者数から見ると、当県を含む東北地方は他の地域に比較してまだまだ少ない状況にあり、旺盛な訪日旅行需要を取り込むためのインバウンド対策の強化が喫緊の課題となっています。
- (3) 当県においては、インバウンド対策の充実に向け、昨年度より創設された「東北観光復興対策交付金」等を活用し、北東北三県の連携による広域的な観光プロモーションの実施、韓国、台湾、タイなどの重点市場を対象とする効果的な宣伝活動の展開、全県域における訪日外国人受入態勢の整備などに、集中的に取り組むことにしています。
- (4) 全国的な外国人旅行者の急増による効果を当県においても享受し、県内各地における観光振興につなげていくためには、「東北観光復興対策交付

金」を平成31年度以降も継続するとともに、大都市圏に集中している訪日外国人旅行者の東北地方への流動を促すため、海外向け情報発信の強化、地方空港の更なる利活用の促進、大都市圏からの移動コストの低減などについて、国が主体となって、広範かつきめ細かな施策を展開していく必要があります。

### 【参考資料】

外国人宿泊者数の推移

年間ベース

(人泊)

	平成22年	平成23年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
青森県	59,100	27,600	57,130	69,670	109,900	143,590
岩手県	83,440	32,140	61,330	73,220	99,360	125,330
宮城県	159,490	47,860	78,400	102,550	161,250	175,480
秋田県	63,570	22,150	31,530	33,810	49,810	62,360
山形県	52,630	30,170	29,070	37,840	57,240	70,400
福島県	87,170	23,990	31,300	37,150	48,090	71,270
合計	505,400	183,910	288,760	354,240	525,650	648,430
全国	26,023,000	17,015,780	31,242,220	42,072,820	60,509,240	64,066,730

上半期（1月～6月）ベース

(人泊)

	平成22年	平成23年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
青森県	24,850	14,060	30,930	48,640	57,890	94,740
岩手県	36,910	20,750	33,040	47,440	51,110	74,960
宮城県	64,530	24,020	40,660	70,460	74,650	98,370
秋田県	35,620	12,050	12,570	22,500	23,290	39,150
山形県	29,950	24,590	22,050	30,830	37,700	55,450
福島県	41,360	14,980	16,650	19,490	32,650	46,850
合計	233,220	110,450	155,900	239,360	277,290	409,520
全国	12,728,010	7,268,490	19,760,280	28,984,230	32,639,410	35,420,470

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」（平成29年は速報値）

(県担当課室名 観光文化スポーツ部観光振興課)

---

---

## IV-3 スタジアム・アリーナ整備に対する支援制度の創設について（新規）

文部科学省大臣官房、スポーツ庁

---

---

### 【要望の内容】

スポーツの成長産業化とこれがもたらす効果を地域活性化に循環させる仕組みを構築するため、拠点となるスタジアム・アリーナの整備に対する新たな支援制度を創設すること。

### 【要望の背景や当県の取組】

- (1) 当県では、スポーツを秋田の活力と発展のシンボルと位置付け、スポーツによる交流人口の拡大と地域活性化を目指して、「スポーツ立県あきた」を推進しており、地域に密着したトップスポーツチームの活躍は、多くの県民に夢や元気を与えています。
- (2) プロサッカーチーム「ブラウブリッツ秋田」は、今シーズンも、昨年を上回る勢いでリーグ開幕から快進撃を続けており、サッカー関係者等を中心にスタジアム建設を望む声が大きくなってきています。こうした中、本年3月には、ブラウブリッツ秋田後援会から、約18万筆の署名とともに、サッカースタジアムの整備に関する要望書が知事及び秋田市長に提出されています。
- (3) このような背景のもと、当県では、8月に、行政機関、スポーツ関係者、経済団体等で構成する「スタジアム整備のあり方検討委員会」を立ち上げ、健康づくりやスポーツ振興はもとより、スポーツを通じて少子高齢化や人口流出などといった諸課題に取り組むための地域の拠点として、より多くの県民が利用できるスタジアム整備のあり方を検討しているところです。
- (4) スポーツは、地域の活性化に大きく貢献するものでありますが、その拠点となるスタジアム・アリーナの整備に対する支援制度がないため、とりわけ、地方においては、財源問題が施設整備の大きな足かせになっています。

(県担当課室名 観光文化スポーツ部スポーツ振興課)